

下野市立国分寺東小学校

1 学校課題

研究テーマ 「互いに認め合い ともに伸びるひがしっ子の育成」
～心ひとつに かしこく やさしく たくましく～

本校は文科省・栃木県教育委員会からの指定を受け、昨年度から2年間、人権教育の研究を推進してきた。

人権教育の目的としては、栃木県では「すべての人々が互いの人権を尊重し、共に生きる社会を実現するため、人権尊重の精神の涵養を目的とする。」と掲げ（人権教育推進の手引き）、小学校時期における人権教育の目標を「豊かな人間性や自尊感情を育成するとともに、人権の大切さに気付き、差別のない望ましい人間関係を醸成することに努める態度を育てる。」としている。また、とちぎ教育振興ビジョン（三期計画）では、「栃木の教育が目指す5つの子ども像」の一つとして「自他の存在を尊重し協同する子ども」の育成を目指している。

さらに、本市の学校教育計画では、「人権尊重の精神を涵養する人権教育の推進」を基本方針とし、努力目標を「①教職員の人権感覚の涵養、②人権尊重に関する教育計画の整備と活用、③人権教育の指導内容、指導方法の充実」としている。学校教育においては、こうした人権教育の基本方針を基盤に据え、組織的・計画的に人権教育を推進し、その目的を達成していかなければならないと考え、実践に取り組んできた。

2 研究計画

	平成24年度(1年目)		平成25年度(2年目)
4	第1回研究推進会議(全体会) 第2回研究推進会議(チーフ会) PTA学年研修①・学級懇談会保護者への啓発 第3回研究推進会議(全体会並びに各部会)	4	第1回研究推進会議(研究推進會) 第2回研究推進会議(全体会) 第3回研究推進会議(研究推進會) PTA総会、学級級懇談保護者への啓発 校内研修 児童理解のための事例研究会
5	児童理解のための事例研究会 家庭訪問時での保護者への啓発 第4回研究推進会議(チーフ会) 第5回研究推進会議(全体会並びに各部会) 第6回研究推進会議(ブロック会)	5	Q-U検査実施 児童集会(1年生を迎える会) 第4回研究推進会議(全体会) 授業研究会 指導案検討会 第5回研究推進会議(ブロック会)
6	Q-U検査実施 第7回研究推進会議(ブロック会) 要請訪問(講話)「人権教育推進のために」 PTA学年研修②学級懇談会保護者への啓発 保護者対象アンケート実施	6	Q-U研修会 児童集会(県民の日ふれあい活動) 保護者向け 人権教育講演会(講話) 授業研究会 指導案検討会 要請訪問(研究授業3年国語 5年道徳)
7	第8回研究推進会議 第9回研究推進会議(チーフ会) ・授業研究会について	7	第6回研究推進会議(各部会) 人権教育講演会(教職員対象) 授業研究会 指導案検討会
8	校内人権教育全体研修会 Q-U検査分析法 校内人権教育全体研修会 ・研究主任 出張報告(参加型学習実習)	8	第7回研究推進会議(各部会) ・紀要作成準備(研究の成果と課題について) 授業研究会 指導案検討会
9	授業研究会 指導案検討 アンケート結果を保護者へ報告 授業研究会 指導案検討	9	授業研究会 指導案検討会 第8回研究推進会議(チーフ会)
10	要請訪問①(2年道徳 6年特活) 第10回研究推進会議(全体会) 第11回全体研修会(講話) 「人権教育のあり方」	10	授業研究会 指導案検討会 要請訪問③(研究授業全学年) 下都賀地区小学校人権教育部会 第9回研究推進会議(チーフ会)
11	人権教育指定校研究発表会に参加 第12回研究推進会議(全体会・部会) ・前期研修のまとめ ・人権教育の育てたい態度・能力	11	Q-U検査実施 PTA学年研修 第10回研究推進会議(チーフ会) 児童、保護者対象アンケート実施

12	第13回研究推進会議（活動実践部） Q-U検査実施 学習指導部（PTA学年研修③） 人権教育講演会（講話） 人権週間「ハートフルロード」言葉の交流	12	人権週間（学級ごとに人権標語を作成） 学級懇談会での保護者への啓発 （アンケート結果報告） 人権教育講演会（保護者・職員対象） 第2回 Q-U研修会（結果分析）
1	指導案検討 第2回 Q-U研修会（分析・考察） 要請訪問②（4年道徳 5年社会科） 児童対象アンケート実施	1	第11回研究推進会議（全体会） 市教職員研修会での本研究内容の発表 研究紀要まとめ
2	PTA学年研修 ・学級懇談会での保護者への啓発 第14回研究推進会議（全体会・部会） ・今年度の反省と次年度への課題	2	PTA学年研修 学級懇談会での保護者への啓発 （各種アンケート結果報告） 人権教育推進のまとめ発表
3	第15回研究推進会議（全体会・部会） ・次年度の計画	3	第12回研究推進会議（全体会・部会） ・2年間の研究の成果 ・今後の研究の課題

3 研究内容

児童が互いにかげがえのない存在として大切に思い、より豊かで温かな人間関係を構築していくための人権意識の涵養をねらいとし、本校児童の人権教育上の課題である「規範意識」「正義感や公正さを重んじる態度」「思いやり」の3つの項目を中心に、＜授業研究＞＜活動実践＞＜研修啓発＞の3つの側面から仮説の検証を通して具体的な実践を図った。

仮説1：人権が尊重される授業づくり

基礎学力の定着を図り、自信をもつ経験を蓄積する過程を大切に、互いの意見や考えを尊重し合う学びの場を設定すれば、児童の自尊感情が高まり、より深いものの見方や考え方を身に付けることができるであろう。

仮説2：人権が尊重される人間関係づくり

異学年間の交流や異校種間の学習など、多様な関わり合いを工夫すれば、児童は互いを認め合い、よりよい関係を築こうとする感情や態度が育つであろう。

仮説3：教職員の人権感覚の高揚と家庭への啓発

教職員自らが人権についての正しい知識や豊かな感性を磨く研修を積み、保護者への啓発連携ができれば、学校と家庭との一貫したよりよい人権教育を進めることができるであろう。

(1) 授業研究部の取組

自他を尊重し、豊かで深いものの見方の育成 仮説①

豊かで確かなものの見方や捉え方を身に付けさせるために、児童一人一人の自尊感情を高め他者と学び合いによって自他の違いやよさを認め合う授業を通して、児童一人一人を大切に授業づくりを実践した。

- ① 学年の発達段階に応じた「学習のスキル」をもとにした学習の基礎基本の定着
- ② 学習意欲や学習効果を高めるために、学び合いを大切に授業の展開の工夫
- ③ 本校の「人権教育における各教科・領域で育てたい資質・態度」につながるような、児童の心に響く道徳の授業
- ④ 人権教育を意識した授業を支える各教科領域の年間計画の見直し
(間接的・直接的指導の系統性)



(2) 活動実践部の取組

互いの考えやよさを認め合い、よりよい人間関係を築く場の設定 仮説②

互いに認め合い、自他を大切にしようとする感情や態度が育つように、日々の学級経営を基盤に据え、さまざまな交流学習や関わり合いを工夫し実践していくこととした。

- ① 学級経営の改善による確かな児童理解，児童が豊かな人間関係を築くために必要な資質や態度の育成
- ② 異学年や異校種間のさまざまな交流活動の実践
 - ・共遊班による異学年交流
 - ・国分寺特別支援学校との学習交流 ・地域の方とのふれあい
- ③ 児童集会や委員会・クラブ活動の工夫による自尊感情・自己肯定感の育成

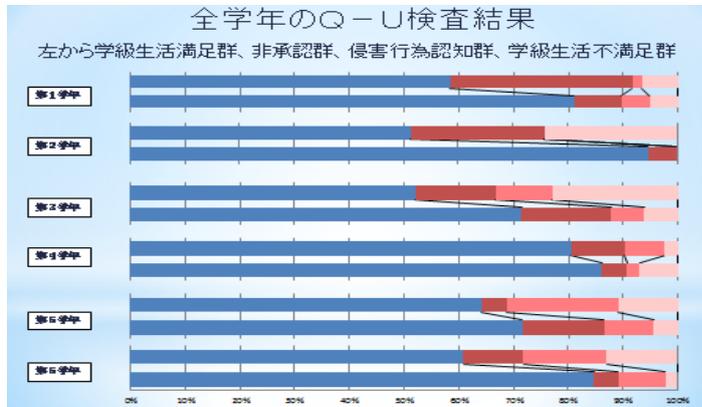


(3) 研修啓発部の取組

教職員の人権感覚を磨く研修と保護者との連携 仮説③

小学校における「人権教育」が効果的に深まるように，人権尊重の精神の正しい認識や人権感覚を磨く研修の場を設定し，教職員と保護者が共通思考で子どもを育むための連携をとった。

- ① 教職員自ら人権感覚を高めるための講演や演習等の研修（専門講師の講演，Q-U分析）
- ② 保護者や地域に対する効果的な啓発
- ③ 全職員が「人権教育」に根ざした教育活動を実践するための，本部会からの検査結果等の提示，学級経営計画や分掌計画・実践への連携



<Q-U結果>

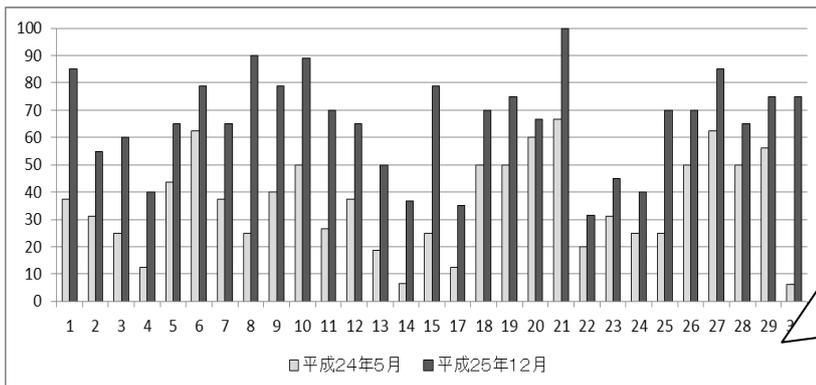
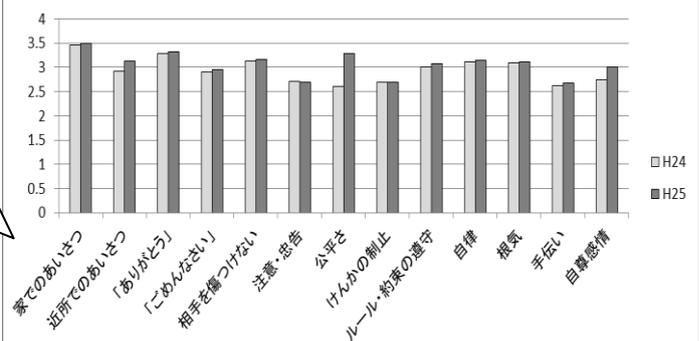
各学年学級とも前年度に比べ，学級への帰属意識や生活満足群の認識が高まっていることが分かる。

（1学年は今年度6月と11月の比較）

<保護者向け人権アンケート>

本校が人権教育上の課題の「規範意識」「思いやり」「公正さ・正義感」「自尊感情」等における具体的な場面の13項目のうち11の項目に改善が図られた。特に「公平さ」と「自尊感情」は，昨年度から大幅な向上が見られた。

アンケート結果(全学年平均)



<教職員向け人権アンケート>

栃木県から示されている「人権感覚を磨く自己チェック表」による振り返りの結果2年次にはほとんどの項目に向上が見られた。中でも「言葉」の重要性[3]や情報の信憑性への判断[30]等，児童に指導してきた内容と同様の項目が，教師の人権意識の向上につながっていることが分かる。

本年度の成果と課題 (○成果 ●課題)

(1)「人権が尊重される授業づくり」について

研究の成果

- 傾聴の姿勢を教師が示すことによって、児童も受容的な態度を身に付けてきた。温かい雰囲気づくりの中で、授業が進められるようになってきた。
- 学習スキルをどの授業でも徹底していることから、ペアやグループでの討議で相手の発言をしっかりと聞き、自分の考えを深められるようになってきた。
- 間接的指導、直接的指導の内容を学年や教科・領域で系統立てて年間指導計画に位置付けられた。体系的な人権教育の授業実践の見通しがもてた。

今後の課題

- 客観的な方法で児童を見取っていく工夫について、さらに研究していく必要がある。
- 人権教育で育てたい能力・態度を意識しながら、教科のめあてに迫るための工夫について研究していく必要がある。

(2)「人権が尊重される人間関係づくり」について

研究の成果

- 他者との交流（なかよし班活動・異学年間の交流・異校種との学習）、自クラスでの交流（ハートフルコーナー）、他を思いやる気持ちの交流の場（ハートフルロード）を通して、自他を思いやる気持ちを醸成できた。
- 高学年が低・中学年を思いやる気持ちが優しい行動や心配りとして表れている。また、低学年は、中・高学年を信頼し、安心して活動ができるようになってきた。
- 清掃活動、なかよし班活動、クラブ活動などにおいて、複数の職員の目で、子どもたちの良さや個性を多方面から見とり、活動の工夫や適切な支援を行うことで、児童の自己肯定感や自己有用感を高めることができた。
- 本校児童の実態を踏まえて「育てたい能力・態度」について一覧表を作成し、期待する児童の姿を明確に設定したことで、目指す姿に近づけるよう日常的に実践を重ねることができた。

今後の課題

- 今年度実施した各種年間計画を再確認したり、改善したりして、引き続き教育実践を図りたい。
- より望ましい人間関係を作り出すための、主体的な実践力を育成していきたい。

(3)「教職員の人権意識の高揚と家庭への啓発」について

研究の成果

- 学校全体で、毎日の学級経営の中に人権を意識した指導をしているため、児童の人権意識が高められた。Q-U検査での学級の所属感が高まっていることがわかった。
- 学年（学級）懇談会などで、人権教育に対する本校の取り組みを説明することで、学校と保護者と地域が協力して人権教育を進めることができた。
- 計画的に人権講演会を開くことで、保護者の人権意識の高揚に寄与することができた。特に、情報化社会のもつ負の一面については、実践的な理解を得られた。
- 2年間を見通した職員研修の場を設け、教職員の人権意識が高まった。特に、Q-U検査の結果を分析し学級経営に反映することで、児童への接し方の幅が広がり、指導力の向上につながった。

今後の課題

- Q-U検査により有効に活用した学級経営ができるように研修を深める必要がある。
- 情報モラルのような人権的に配慮を要する新たな問題に対応した研修を注意深く進めると共に家庭環境や地域に合った人権研修を適切に企画運営していく必要がある。